

## 4. 高津川の洪水と治水の歴史

### (1)水害の記録

表4—7は事業区域内における水害の記録である。高津川流域では津和野藩が水害の記録を多く残しているため、近世以降に関しては比較的詳細な被害状況が読み取れる。しかし江の川流域では4年に1度の頻度で起こるといわれる洪水の多さにも関わらず、今一つ具体的な記録が不明である。以下の表は各市町村の郷土誌の記録をもとにまとめてあるため、数値に関してはほとんどが事業区域内全体の数ではない事を断っておく。

### (2)昭和期の主な水害

#### ①昭和 18 年水害

図4—17は昭和18年水害における高津川下流域の氾濫区域である。当時は河川改修もさほど進んでいない事もあって、谷底氾濫原の大部分が浸水した大水害であった。津和野では9月19・20日での2日雨量483mm(年間降水量の3分の1近く)を記録し、高角での流量は約4,000 m<sup>3</sup>/s(47年は5,780 m<sup>3</sup>/s、58年は2,520 m<sup>3</sup>/s)であったと推定される。この災害は戦時中であったために復旧が遅れ、加えて翌19・20年にも高津川が氾濫したため、流域住民の生活を大きな打撃を与えた。

表4—7 事業区域の水害年表

元号(西暦)	月 日	災 害 状 況
和銅元(708)	8月5日	暴風雨。詳細不明。
天福元(1233)		江の川氾濫、流路変更で石河村(現川本町)が分断される。
正平21(1366)	7月14日	江の川氾濫。人家151軒流出、死者473名。
慶長7(1602)		横田川洪水。
慶長14(1609)		高津川大出水により小高津の熊野神社が流出。
慶長18(1613)		西横田村下之郷小山の神宮流出、本横田村と西横田村の境界が濶になり下畑16石7斗蒔きを失い家数も27軒を流失。
寛永8(1631)		大洪水で横田下市が冠水、ためにむくろじ台の横田中八幡宮が流失。
寛永16(1639)	6月21日	高津川の新川が崩壊し吉田平野に後川を作った。
寛永20(1643)	7月18日	大風雨のため高津川大洪水となり、金地境から向横田の小山八幡宮まで田畑は冠水、家敷18軒を流失。矢谷川でも河川氾濫し、土砂崩れ多発。
寛文10(1670)	7月7日	向横田大佐古谷の農家27軒流出。
延宝2(1674)		石東地方で水害。詳細不明。
元禄11(1698)	6月28日	高津川洪水向横田の下組にかけ、田17町、戸数27戸を流失。
元禄15(1702)	9月	津和野川洪水。津和野領内の被害は17,124石に上り、日原村で15軒が流失。
宝永4(1707)	9月11日	暴風・出水あり。津和野領内で田畑1,500石余、家438軒、死者1名の被害。
正徳4(1714)		高津川洪水で横田の田畑の流失は41町2反歩にわたった。
享保14(1729)	6月	益田川大洪水。
元文元(1736)	7月4日	浜田川洪水。浜田城下、東西3里が浸水。浜田大橋・三重橋・牛市大橋流失。
元文3(1738)	6月28日	津和野領内、減収5,413石、堤防決壊多数。
元文4(1739)	9月	津和野川筋洪水。被害5,413石。
寛保3(1743)		江津地方で風水害、損害18石余。

元号(西暦)	月 日	災 害 状 況
宝暦3 (1753)	7月	高津川洪水。上波田、益田で民家多数が流失。津和野領内損耗6,300石余。
宝暦8 (1758)	11月	高津川出水。津和野領内損耗、5,681石。
宝暦13 (1763)	8月	川本付近に局地的集中豪雨。道路・田畑が流失。
明和7 (1770)		高津川洪水。横田の流失田地は2町1段歩に及んだ。
寛政元 (1789)	6月	高津川の増水1丈4尺(約4m)に及び、須子河原の津和野藩御茶屋及び御荷物小屋を流失、御高礼場の土台の石垣まで溢れた。周布川も氾濫。
寛政7 (1795)	6月5日	益田川の水が3つに分かれ古川では3軒、門所14軒、堀川40軒を流失。新高津川は河床を西中ノ島地内に変更したので高津川の西側に中ノ島の飛地を作り吉田・下本郷の田地を流失させた。横田の流失田地は11町1段歩、津田沿岸の損失は高10石2斗6升4合に達した。宇津川においては7歩方の田地を流失。
寛政8 (1796)	7月9日	浜田領内減取2万石。その他、家屋堤防被害多数。
文化元 (1804)		洪水のため高津川の川口が東方中須村の方へ移動。
文化4 (1807)		高津川洪水。日原村で死者多数。
文化8 (1811)	6月	八戸川・敷川で洪水。
文化13 (1816)		江の川大洪水。
文政3 (1820)	7月2日	江の川大洪水。流失家屋400軒余、死者多数。
文政5 (1822)		高津川洪水で横田の流失田地34町1段歩に及んだ。
文政11 (1828)	6月14日	高津川洪水。津田村で砂入田損害2段、水押し3段、崖崩れによる損害5段余りに及んだ。乙吉村の恵古、鋤先、木戸ノ前辺の益田川堤防所が破れた。
天保2 (1831)	7月	江の川氾濫。川筋の田畑・山林に多くの損害。
天保7 (1836)	6月11日	高津川の水かさは26尺(8m)、益田中市、下市の浸水高さは2尺、吉田平野一円の流出家屋100戸、死傷者15人、益田大橋が流失。横田の流失田地は43町8段5畝歩。津和野領内の損失は田畑収納の損耗高約4万4千石余り、流失家屋422軒、潰家168軒、損家566軒。井手落1,576カ所。土手切17カ所、流失した橋は439、ついぬけ14,192カ所、流人241人。
天保8 (1837)	7月7日	11日連続の雨で高津川・匹見川大洪水。青原から川下は人家が相当流れ死者もあった。江の川でも大洪水があり、瑞穂の出羽大橋が流失。
弘化3 (1846)	6月	江の川・早水川氾濫。死者14名、流出家屋17軒(浜田藩内)。
嘉永3 (1850)	6月28日	高津川で出水し、小高津の舟問屋大中屋田村家流失。高津の中市・下市は鴨居まで浸水、田地及び家屋が多数流失。江の川でも出水し、流失家屋は川本で107軒。
	7月8日	高津川洪水。横田で田地51町が流失。
嘉永4 (1851)	7月18日	邑智で豪雨があり、山崩れ756カ所に及び、数軒の家が巻き込まれた。
嘉永5 (1852)	9月	江の川洪水。邑智の夜半谷川に鉄砲水、田畑・家が流される。
元治元 (1864)	6月5日	高津川洪水。津田村での損害面積は6段2畝17歩高4石4斗6合に達した。
慶応元 (1865)		高津川大洪水。流失田地は14町5段に及ぶ。
慶応2 (1866)	8月2日	江の川、出羽川洪水。堤防決壊、田畑流出。
	9月12日	石西地方で洪水。家屋流出10数戸、その他堤防決壊、田畑流出多数。
明治2 (1869)	8月12日	津和野・吉賀・高津川洪水、枕瀬・横田地区など冠水。
明治6 (1873)	8月27日	浜田川出水。浜田大橋・田町橋流失。松原の家屋3軒流失。
	8月29日	江の川・八戸川出水。桜江で19.14mの増水。各所決壊し、家屋の浸水・流出相次ぐ。
明治8 (1875)	7月20日	高津川が平水より3mの増水で、津田村堤防決壊。
明治13 (1880)	7月1日	江の川出水。詳細不明。
明治17 (1884)	8月26日	高津川出水。損害箇所は堤防8、水堀3、橋梁7、用水路2、井戸堰1、船2に及んだ。
明治19 (1885)	6月1日	高津川出水。損害家屋46、堤防11、道路4、橋梁9、水堀7。
明治26 (1893)	10月 13~16日	高津川増水、水位約6m。損害家屋29戸、橋梁15、田畑4町5段歩流出。 江の川・八戸川大洪水。流失家屋・田畑多数。 周布川洪水。橋梁流出、家屋30戸浸水。
明治27 (1894)	9月11日	泉下総被害。死者62名、行方不明14名、浸水家屋26,129棟、流失家屋7,454棟。 吉賀・匹見川で最高水位8m以上。下流域は大半が浸水し、高角橋流失。高津川流域の損害は、死者22名、負傷者24名、倒潰家屋92棟、同半潰588棟、同流出125棟に及ぶ。浜田川でも増水し、浸水家屋数百戸、堤防決壊4カ所。
大正6 (1917)	9月14日	高津川大出水のため吉田平野は一面湖水化した。

元号(西暦)	月 日	災 害 状 況
大正7(1918)	7月11日	吉賀川増水。神田橋墜落。
大正8(1919)	7月4日	江の川大洪水、郷川大橋の一部が流失した他、橋梁は悉く流失し、口羽村で山崩れが発生し、死者多数。浸水・流出家屋多数。高津川増水、最高水位約6m、高角橋・神田橋が流失、益田町役場倒壊、吉田平野500町歩は一面泥海と化した。浜田川も出水し、浜田川大橋流失、浸水家屋505戸。
昭和3(1928)	6月 24～26日	高津川氾濫。鹿足郡を中心に、田畑流失9町、橋梁流失37、堤防破損700間。
昭和7(1932)	7月6日	高津川洪水。堤防決壊260m、破損220m、道路破損流失110m、水田流失1.5町。
昭和10(1935)	6月30日	高津川洪水。国道神田橋をはじめ橋梁流失。
昭和11(1936)	9月10日	柿木村で集中豪雨、390mm。鹿足郡で死傷者23名、家屋流失16軒、浸水家屋332軒。
昭和16(1941)	7月10日	石見地方で大洪水。角井の高津川に沿う鉄道線路と高角橋が流失、高津の土蔵及び角井の人家が倒壊した。
昭和18(1943)	9月 19～20日	石見地方の河川が氾濫し、大災害となる。死者93名、行方不明者15名、流出家屋33戸、全壊家屋184戸、半壊家屋1,770戸、床上浸水家屋863戸、流出橋梁の被害66,500円、道路被害19万4千円。特に那賀郡・美濃郡での災害が大きく、波佐村では2日間で年間降水量の約3分の1にあたる585mmを記録。江の川、川戸での水位は18.5mを記録。
昭和19(1944)	9月 16～17日	石見地方に豪雨。死者・行方不明9名、負傷者34名、浸水家屋5,823戸。昨年に引き続いての災害のため、極度の食糧不足が起こった。
昭和20(1945)	9月 17～18日	浜田川・周布川増水。行方不明者1名、浸水家屋453戸。堤防決壊6カ所、道路流出7カ所。
昭和26(1951)	10月14日	ルース台風により高津川氾濫。日原で浸水家屋20戸。
昭和33(1958)	6月30日 ～7月1日	浜田地方に集中豪雨。行方不明者1名、負傷者123名、浸水家屋5,785戸、橋梁被害91カ所、道路決壊558カ所、被害総額は18億6,987万円。
昭和40(1965)	7月 13～22日	江の川洪水。桜江大橋をはじめ橋梁多数流失、浜原ダム貯水池の貯水が浮上流出して、下流の架橋に次々と激突した。川戸の最高水位は13.25mに達する。
昭和46(1971)	7月1日	梅雨前線による集中豪雨で石東地方に被害。管内の被害は死者・行方不明者4名、床上浸水361棟、床下浸水2,049世帯、道路損壊158カ所、橋梁流失67カ所、堤防決壊134カ所。
昭和47(1972)	7月 10～12日	山陰地方に梅雨前線による集中豪雨。石見の各河川は氾濫し、大災害をもたらす。島根県全体の被害は死者26名、負傷者79名、行方不明2名、流失家屋95戸、全壊家屋559戸、床上浸水は11,845戸、床下浸水が26,449戸。被害総額は840億6,432万円に及んだ。
昭和50(1975)	7月14日 8月 6～7日	邑智町湯抱地区に集中豪雨。被害総額は10億を越す。集中豪雨により、江の川支流部で局地的災害。邑智町では死者1名、重傷1名、全壊家屋5戸、浸水家屋94戸、被害総額38億円余。
昭和58(1983)	7月 20～23日	島根県西部の沿岸部を中心とした集中豪雨災害。総雨量は三隅で742mm、浜田で516mm、益田で633mmの記録的豪雨となった。島根県下の被害は死者・行方不明者107名、負傷者159名、全壊家屋1,372戸、流失家屋308戸、床上浸水7,741戸、床下浸水10,475戸、被害総額は3,600億円余にも上った。
昭和60(1985)	7月6日	石見地方に時間雨量40～60mmの集中豪雨。重軽傷者7名、浸水家屋1,518戸、田畑393haが流出・冠水。
昭和63(1988)	7月 14～21日	浜田・三隅地方を中心に記録的な集中豪雨。20日に三隅では時間雨量100mmという中国地方で観測史上第2位の雨量を記録。また、浜田でも15日の1日雨量が393mmと観測史上最高値を記録した。県内の死者・行方不明6名、浸水家屋6,050戸、全壊家屋17戸を数えた。

## ②昭和47年水害

昭和47年7月の梅雨前線は中国地方の大部分に集中豪雨をもたらし、殆どの地域で日雨量・総雨量が既往最大の異常気象であった。この時の気圧配置(図4—18)は中国地方に停滞する梅雨前線上を次々に小さな低気圧が通って石見地方に雷雨性の豪雨をもたらし、7月9～13日の間、前線の位置は山陰沖から瀬戸内ぐらいいまでの間を移動したに過ぎず、天気図はほとんど変わらなかった。図4—19

はこの時の高津川流域における総雨量分布図である。この豪雨で河川の氾濫区域は益田市の中心街を除けば昭和18年の時と殆ど変わらない範囲に達し、また山地や丘陵地では土壌が飽和に達して斜面崩壊の被害が相次いだ。



図4-17 昭和18年水害による高津川直轄管理区間の氾濫区域図 (青の部分が氾濫区域)



図4-18 昭和47年7月11日09時の天気図

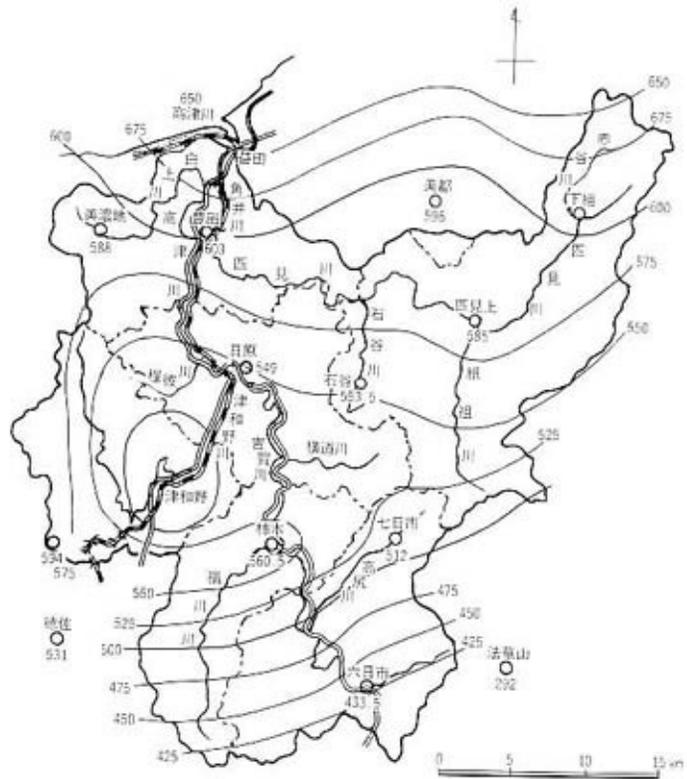


図4-19 昭和47年7月豪雨における高津川流域の総雨量分布図  
(資料：建設省中国地方建設局「昭和47年7月豪雨災害誌」による)

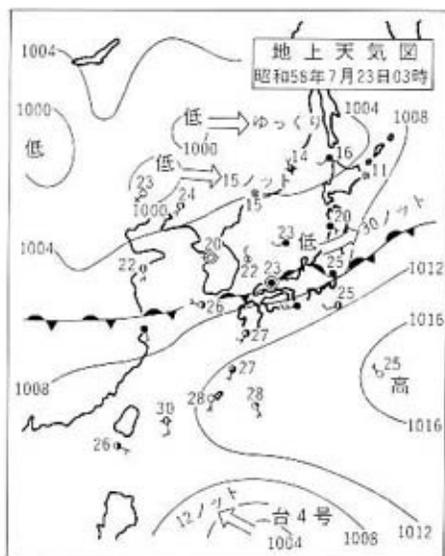


図4-20 昭和58年7月23日03時の天気図  
(資料：建設省中国地方建設局「昭和58年7月豪雨災害誌」)

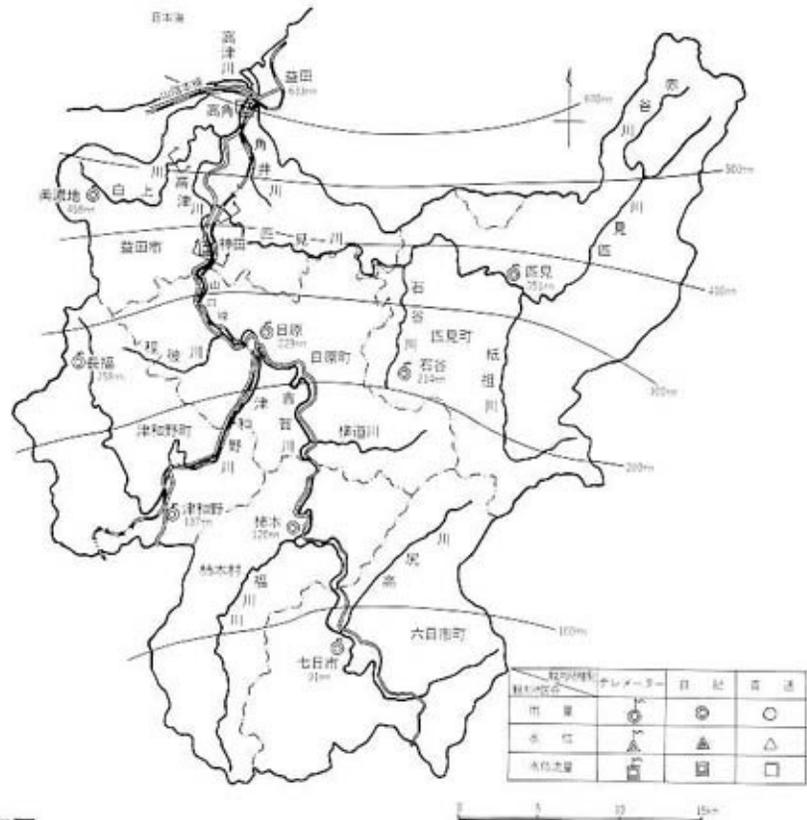


図4-21 昭和58年7月豪雨における高津川流域の総雨量分布図  
(資料：建設省中国地方建設局「昭和58年7月豪雨災害誌」)